は　じ　め　に

学校長　宮　川　正　美

昭和60年度に設定された研究テーマ「発達と障害に応じた教育をめざして── 個に視点をあてた指導の実践 ──」については３年間研究に取り組まれ、昭和63年度一応の区切りがつけられた。しかし成果をあげながらも、いくつかの問題点が浮き彫りにされてきた。

その１つは、どのような障害をもつ児童生徒にとってもしっかりした「からだづくり」が必要であるということである。そこで昨年、心身障害児教育にたずさわる者達がめざす教育は「発達と障害に応じた教育」であるから、この主題はかえることなく、副題を新しく「　からだづくりを通して　」と設定し、１年間取り組んできたが、初年度ということでもあり、本校の児童生徒の実態把握を中心に基礎的データの収集、データづくりに追われ実践が充分とはいかなかった。

「からだ」が平仮名で表記されているのは、「からだ」は肉体だけを意味するのではなく、精神的な要素を含めたものを指しているとしたからである。しかし、昨年は必ずしも各学部が統一した考えのもとに研究、実践が進められたとは言い難い面があった。そこで、本年改めて、研究推進委員会、各学部などで討議が重ねられ、この研究テーマに対し全員共通理解を得るに至り、併せて本校教育の念願である一貫教育による児童生徒の社会的自立を目指し、研究、実践を行うことになった。

昨年は「からだ」についても、主に取り組み易い運動面での研究実践が進められたように思われる。本年はこれら運動面だけではなく、楽しく遊んでいるうちに、自然に「からだ」が動いて「からだづくり」が出来る手だてに工夫をこらしたり、日常生活や仕事の場面にも活動の場を見出し、取り組みの遅れている精神的要素の１つである意欲づけを各学部が苦慮しながら取り入れてきた。なにぶん実践期間が短く、未だ期待した程の成果は得られてはいないので、次年度も引き続き実践することになるであろう。「井の中の蛙」にならぬためにも各位の率直な意見やご批判が頂ければ幸である。

最後になったが、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、鳥取県盲聾養護学校校長会、鳥取県心身障害児教育研究会、鳥取大学教育学部教官に対し、深く感謝を表したい。